

令和4年度 第1回学校運営協議会 及び 第1回コンプライアンス委員会

1 日時 令和4年5月10日（火）10:00～12:00

2 会場 本校校長室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

常葉大学教育学部初等教育課程 講師

協同組合静岡流通センター 専務理事

静岡市障害者協会 静岡市障害者相談支援推進センター 事務局長

麻機学区自治会連合会 防災委員長

本校PTA会長

(2) 本校職員

校長、副校長、教頭、事務長、部主事（小・中・高）、教務主任

4 会議次第

(1)開会

(2)校内案内

(3)協議

(4)第1回コンプライアンス委員会

(5)閉会

5 会議内容

(1)開会

ア 校長挨拶

- ・4月に本校に赴任した。3月まで教員の研修センター「あすなろ」に3年間、その前は吉田特別支援学校に勤めていた。
- ・前校長から、運営協議会委員の皆様には2年目を快諾していただいたと聞いており、感謝している。また、昨年度は本校に温かい御理解と力強い支援をいただいたとも聞いている。今年度もよろしくお願ひしたい。

イ 自己紹介

ウ 日程説明

(2)校内案内（教室、職員室）

(3)協議

ア 本日の協議の趣旨説明

- ・本日の目的は2つ。今年度の学校経営計画を協議・承認いただくこと、学校運営について御意見をいただくこと。

イ 学校運営協議会について

(ア) 規則、要綱確認

(イ) 本校学校運営協議会のイメージ図の説明

- ・イメージ図は「地域と共にある学校」を目指し、力を合わせて学校を運営する姿を蓮の花になぞらえて示した。
 - －学校教育目標は『『夢中』と『笑顔』で共生社会を生きるひと』
 - －目指す児童生徒像は「麻機の蓮の蕾が開くように」
 - －合言葉は「みんなと仲よく、明るく元気に、せいっぱいがんばるひと」。
 - －校章は、小学部児童、中学部生徒、高等部生徒、保護者、地域、職員の六者が手をつなぎ、力を合わせる様子が示されている。
 - －学校運営協議会はその土台として、「適切な役割分担」「学校運営に対する支援」「地域と学校とが協働する体制」「地域全体の教育力向上」のためにある。

(ウ) 質問・意見

なし

(エ) 会長・副会長の選出

- ・会長、副会長は昨年度に引き続き同じ方をお願いすることを承認していただけるか。
⇒承認。この後の進行を会長をお願いした。

ウ 令和4年度の学校経営計画について

(ア) 説明

- ・本校は今年49年目、来年50年の節目を迎える歴史ある知的障害の学校。歴史はあるが、同時に今の時代をとらえた新しい教育を展開したい。
- ・学校教育目標は、昨年度新しくした。一人一人が変化の多い未来を生き抜く確かな力をつけられる学校を目指している。「夢中」とは、受け身ではなく人生の主人公として夢中になってやり遂げること。「笑顔」とは、人は一人で生きていくことはできないので、仲間と一緒に乗り越えていく力が必要と考え、周囲と笑顔で関わることや、「できた」喜びで笑顔になること。多様性を認める共生社会を目指して、長い歴史の中で育んできた専門性を活かし、「令和の日本型学校教育」をエッセンスとして加えながら学校を運営していく。
- ・目標実現のための具体的な柱は「専門性」「安全・安心」「連携」の3本。一つ目「主体的に学び、社会参加・自立に必要な力をつけることができる学校（専門性）」として、学校体制でのカリキュラム・マネジメントと静北版OJT研修による「技」の伝え合いを行い、児童生徒に確かな力を育成する。「効率よくかつ迅速な」業務と「なごやかにやさしく」職場づくりに努める。二つ目「安全・安心な生活ができる学校」として、教職員自らも人権感覚を高め、児童生徒の人権尊重の精神を育てる。コロナに象徴されるよう、児童生徒の健康に配慮した居場所づくりのため、本校の状況を最大限に生かし、厳しい状況にはあるが、外に出て地域の方々に助けをいただきながら、学習環境を整備する。三つ目「家庭や地域、関係機関と共に歩む学校（連携）」として、地域資源を活用する学習（麻活）を充実させ、地域に発信する。個別の教育支援計画を活用し、入学前から卒業後につながる連携を図る。
- ・目指す教師像は「効率よくかつ迅速に なごやかにやさしく」。教員だけでなく、事務室職員も含め、教職員全員でこれを目指す。
- ・本年度の具体的な取組について学校経営計画書に、取組目標、達成方法（達成のための具体的な手段）、成果目標（どうなれば達成できたと言えるか）、担当部署を示してある。「専門性」では、「児童生徒理解に基づく『夢中』と『笑顔』の授業づくり」のため、子

どもたちが目的や見通しをもてる導入の工夫、GIGA スクール構想による端末を使った授業を行う。授業が楽しい、できるようになったことが増えたと答える児童生徒、保護者 80%、またタブレットを使った授業 1 回を目指す。「安全・安心」では、未然防止への行動力と有事への対応力の向上のため、マニュアルの理解、日常的な事故原因の発見と情報共有を行う。ヒヤリハットの情報共有 100%を目指し、教員への評価で確認する。「連携」では、豊かな地域資源への深い理解と、それを活かした実践、発信のため、麻活の充実のための情報提供と職員研修の実施、学校運営協議会との協働、学校ホームページの充実を行う。12 年間の麻活の指導内容を理解している教員 100%、麻活の取組を知っていると答える保護者 80%を目指す。

(イ) 各学部の経営

- ・【小学部】学部目標は「興味関心を広げ、友達とかかわりながら自分から活動する子」。精細な児童理解のため、学部独自で「子ども理解の表」を作成し、指導に活かす。身辺処理について、定期的に取り組状況を確認し、支援の改善や取組の向上を図る。表現については、今もっている力を使って表現し、「伝えて良かった」「伝わった」と児童が感じられるようにすることを大事にする。
- ・【中学部】学部目標は「自ら考え、進んで活動する生徒」。「仲間と協力、仲間のために」を合言葉として、生活リズムを整え、進んで挨拶や返事をする、自分で考え、選択し、決定することを大事にする。
- ・【高等部】学部目標は「地域で生活し、地域から学び、地域で働くことに喜びをもつ生徒」。自他を大切に、仲間意識をもつ生徒を目指し、自己理解を深めること、周りの人を受け入れること、自分の気持ちを人に伝えることを大事にする。

(ウ) 質問・意見（・）とそれに対する回答（→）

- ・静岡市のモデル事業で障害のある方の防災計画を作成している。地元の防災訓練に参加していない、関わりが少ないという現状がある。本校の児童生徒の暮らしている地域との連携はどうか。
→地域の防災訓練の参加については、高等部の生徒のうち、地域の中学校を卒業した生徒は根づいている様子だが、そうでない生徒は難しい家庭もある。
- 居住地校交流の現状について。保護者が希望する場合に行っている。小学部では昨年度 40 人程度の希望があったが、コロナで全員中止となった。リモートでのやりとりの理解が可能な児童は、Zoom を使って間接交流を行った。会ったことのない子同士のリモート交流には難しさもあった。麻機小学校との交流は、何十年も続けて行っている。コロナの状況を見ながらだが、後期は直接交流ができればと考えている。
- 児童生徒が地域の防災訓練に参加できるよう、働きかけたいと思う。
 - ・交流等共同学習の日程に防災訓練を上手く組めればと思う。タイミングを整えると保護者も勇気が出るかもしれない。共生教育が軸となる。
 - ・通常級の教師をしている卒業生が連休中に訪ねてきた。支援が必要な子が多いとのこと。特性のある子について、子どもたちにどう語ればよいか、言葉が見つかっていないと言っていた。障害にどう接していけばよいか、教師がモデルになると思う。先生方の経験から教えていただくと学生に伝えられる。
 - ・障害のある方への「合理的配慮の提供」が言われているが、「合理的配慮」という言葉がこなれないと感じている。地域の人とどう共有していくか。事例があれば教えてほしい。
 - ・共生という視点で、麻機小との交流は良い試みだと思う。with コロナの時代、コロナだからだめと言っていると何もできなくなる。できれば定期的にそういった場がもてると良いと思う。

- ・(校内を見て) 体育館やプレイルームにエアコンが入らないのだと気になった。新電力のこともあり、電気料が高騰しているが学校はどうか。
- 電気料は厳しい状況。学校に来ている予算では難しい。新電力による電気料高騰は、全県下共通の悩みである。学校の自助努力だけでは難しい。
- ・本年度の学校経営計画を承認いただけるか。⇒承認。

(4) 第1回コンプライアンス委員会

ア 不祥事根絶への取組計画

(ア) 各月の重点

- ・継続的な取組として、安全運転への意識向上、合言葉による職員一丸となる雰囲気づくり、管理職による見守りと言葉掛け、相談、「静北教職員心得」による規範意識の向上、時間外勤務削減のための時間管理の取組などを行っている。
- ・月別の取組として、月ごとに「体罰・ハラスメント」「人権」「交通事故・飲酒運転」「個人情報流出」など重点を設け、職員の意識が落ちないように取り組んでいく。偶数月を交通安全の強化月間とする。

(イ) 教職員心得

- ・『さん』をつけて名前を呼ぶ」「年齢にふさわしい関わり方」「感情的に指導をしない」「一対一でなく複数で対応し、お互いの言動に気を配る」「個人の携帯電話・SNSでのやり取りは行わない」「データはこまめに消す」「常に個人情報を扱っている意識をもつ」「会計は月に一度は整理・報告」などを教職員心得としている。

(ウ) 臨時職員会議 (行動宣言)

- ・今年度に入り、県の教職員で逮捕者が3名出たことを受け、本校では緊急職員会議を行った。自分事としてとらえるために、自分自身にひそむヒヤリハットと不祥事根絶のために自分にできることは何か考えた。ホワイトボードに掲示してあるのがそれである。今一度何を大切にするのかを考えたり、他の人が書いたものを見て気づきを得たりして、意識の高まりが見られた。

イ 質問・意見(・)とそれに対する回答(→)

- ・いろいろな事情の保護者がいて、御自身が生きづらさを抱えているケースもあると思う。そのストレスから、“クレマー”のように話しにくいタイプの保護者もいて当然。学校の先生は「外注」が得意ではないが、ぜひ「外注」してほしい。
- ・交通安全に関して、こども病院、本校に入る信号のところでの様子が気になっている。スクールバスの運転手は一旦停止をしているようだが、保護者や職員はどうか。
- 校内では「想像力をもって運転しよう」ということを繰り返し伝えている。帰りに放送を入れたり、教員の交通安全委員会が啓発を行ったりしている。本校では水曜日と日曜日に特に注意が必要だと分かったので、重点的に注意喚起を行っている。今取り上げていただいた該当箇所についても、本校職員に注意するよう働き掛けたいと思う。

(5) 閉会

- ・次回の学校運営協議会は7月3日、11月9日、2月22日と続く。時間は10時から12時。
- ・今日は足をお運びいただき、また御意見をいただき、ありがとうございました。御意見をいただく時間が少なかったが、校内を回られている間に発していただいたお言葉もあった。御指摘、御意見を受け、改善できるものは改善していく。